

# 平成15年度学校基本調査報告

徳島県統計調査課

## 調査結果の概要

### はじめに

学校基本調査は、統計法（昭和22年法律第18号）による指定統計第13号として、昭和23年以来文部科学省所管のもとに毎年5月1日現在で全国一斉に実施されているものであり、学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的として、学校に関する基本的事項を調査するものである。

この報告書は、平成15年度に実施した調査のうち、本県における調査結果から利用度の高いものを重点に収録したものである。

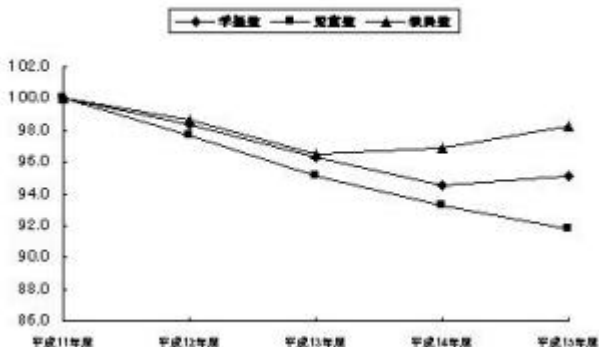
## 学校調査

### 1 小学校

小学校は前年度より1校減少し281校（うち国立1校，私立2校）で，児童は45,268人と前年度に比べ723人減少した。しかし，学級数は2,040学級と前年度と比べ13学級増加し，本務の教員も3,400人と46人増加した。

1学級当たり児童数は22.2人と前年度に比べ0.5人減少し，本務教員1人当たりでは13.3人と0.4人減少し，ここ数年減少傾向にある。

図1 小学校の児童数，学級数，本務教員数の推移  
(平成11年度=100)



長期欠席児童（前年度間に通算30日以上欠席した児童）は，418人と前年度より80人減少し，全児童に占める比率（長欠率）は，0.92%と前年度より0.16ポイント減少した。

表1 小学校理由別長期欠席児童  
(30日以上欠席した児童)数 (単位:人,%)

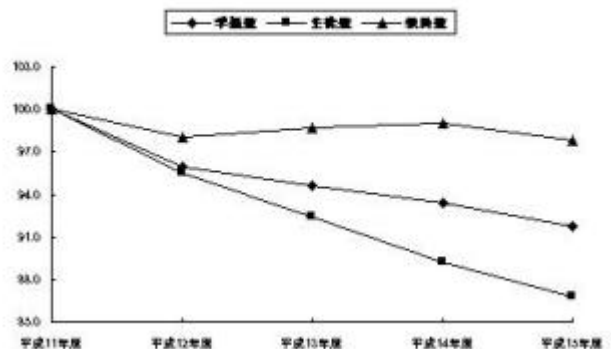
区分	理由別児童数					長欠率
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成11年度	592	329 (55.6)	14 (2.4)	173 (29.2)	76 (12.8)	1.20
平成12年度	534	274 (51.3)	1 (0.2)	181 (33.9)	78 (14.6)	1.11
平成13年度	534	301 (56.4)	3 (0.6)	175 (32.8)	55 (10.3)	1.14
平成14年度	498	271 (54.4)	0 (-)	163 (32.7)	64 (12.9)	1.08
平成15年度	418	199 (47.6)	1 (0.2)	150 (35.9)	68 (16.3)	0.92

注) 括弧は構成比  
(長欠率) = (長期欠席児童数) ÷ (児童数)

### 2 中学校

中学校は，前年度と同数の98校（うち国立1校，私立2校）で，生徒は24,974人と前年度に比べ687人減少し，学級も863学級と前年度に比べ16学級減少した。本務の教員については2,089人と前年度より24人減少した。

図2 中学校の生徒数，学級数，本務教員数の推移  
(平成11年度=100)



長期欠席者は981人と前年度に比べ109人減少し，長欠率も3.93%と0.32ポイント減少した。

表2 中学校理由別長期欠席生徒  
(30日以上欠席した生徒)数 (単位:人,%)

区分	理由別生徒数					長欠率
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成11年度	1,050	212 (20.2)	13 (1.2)	759 (72.3)	66 (6.3)	3.65
平成12年度	974	171 (17.6)	4 (0.4)	723 (74.2)	76 (7.8)	3.55
平成13年度	1,062	187 (17.6)	5 (0.5)	791 (74.5)	79 (7.4)	4.00
平成14年度	1,090	186 (17.1)	5 (0.5)	846 (77.6)	53 (4.9)	4.25
平成15年度	981	168 (17.1)	4 (0.4)	736 (75.0)	73 (7.4)	3.93

注) 括弧は構成比

$$(長欠率) = (長期欠席生徒数) \div (生徒数)$$

### 3 高等学校

高等学校は、前年度より1校減少し、51校(うち私立4校)で、生徒25,567人と前年度に比べ1,209人減少した。そのため学級も727学級(公立の本科のみ)と前年度に比べ25学級減少し、本務の教員も2,055人となり80人減少した。

学科別生徒数<全日制+定時制>(本科)をみると普通科が17,726人と最も多く、次いで工業科2,681人、商業科2,548人の順になっている。

表3 高等学校学科別生徒数構成比  
<全日+定時>(本科)計

(単位:%)

	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	総合
平成11年度	100.0	68.8	3.5	10.4	11.6	0.6	1.6	0.8	...	...	1.4	1.3
平成12年度	100.0	68.7	3.7	10.5	11.2	0.6	1.6	0.8	...	...	1.4	1.5
平成13年度	100.0	68.6	3.7	10.8	11.0	0.5	1.8	0.8	...	...	1.4	1.5
平成14年度	100.0	69.1	3.6	10.8	10.5	0.4	1.9	0.7	...	...	1.6	1.3
平成15年度	100.0	69.6	3.3	10.5	10.0	0.4	1.7	0.6	-	0.1	1.2	2.6

### 4 盲・聾・養護学校

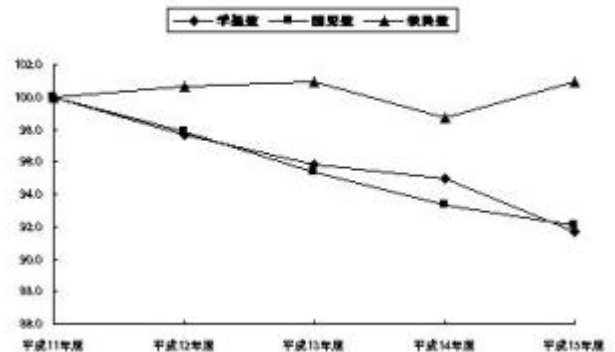
特殊教育諸学校は盲学校1校、聾学校1校、養護学校8校で前年度と同じだが、児童・生徒は盲学校76人(前年度比9人増)、聾学校57人(前年度比2人増)、養護学校712人(前年度比36人増)と全体で47人増加した。学級は盲学校21学級、聾学校22学級、養護学校213学級、全体では前年度より4学級の増加であった。本務教員は盲学校56人(前年度比4人減)聾学校54人(前年度比2人減)、養護学校523人(前年度比11人増)と全体で5人増加した。

また、本務教員1人当たりの在学者は盲・聾・養護学校全体で1.3人と前年度並であった。

### 5 幼稚園

幼稚園は前年度より3園減少し235園(うち国立1園、私立13園)で、在園者も9,566人と135人減少した。学級は510学級と18学級減少したが、本務教員は772人と7人増加した。

図3 幼稚園の園児数、学級数、本務教員数の推移  
(平成11年度=100)



小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の比率

$$\left( \frac{\text{本年3月幼稚園修了者数}}{\text{本年度小学校第1学年児童数}} \times 100 \right)$$

は全国平均59.3%を大きく上回る71.5%である。

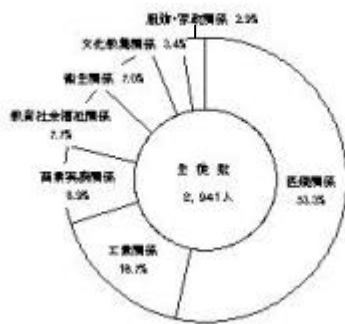
## 6 専修学校

学校は前年度と同数で23校（国立1校，公立2校，私立20校）であり，また県全体の学科は44学科であった。

生徒は2,941人（国立129人，公立605人，私立2,207人）と前年度より7人増加した。

生徒数の内訳では，医療関係が最も多く53.3%を占めている。次いで工業関係16.7%，商業実務関係8.9%となっている。

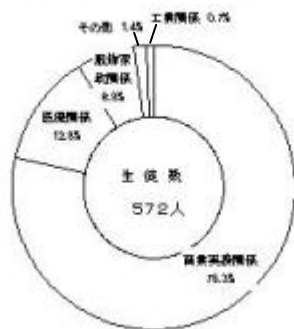
図4 専修学校分野別生徒数構成比



## 7 各種学校

学校は前年度と同数で23校（全て私立），課程は前年度より1課程減少し24課程であった。生徒は572人と前年度より21人減少した。また，その内訳は商業実務関係が78.3%を占め，次いで医療関係12.8%，服飾家政関係6.8%の順になっている。

図5 各種学校分野別生徒数構成比



## 不就学学齢児童生徒調査

不就学学齢児童生徒のうち，就学免除者は前年に引き続き該当なし，就学猶予者は3人であった。また，1年以上の居所不明者は前年に引き続き該当なし，平成14年度間で死亡した学齢児童生徒は4人であった。

## 高等学校通信教育調査

県内の高等学校通信制は公立の定時制の併置校が1校であり，学科数は普通科と看護学科の2学科である。

生徒数は1,432人で前年度より9人減少した。

前年度の単位取得者は691人で卒業者は167人であり，入学者は240人と前年度より18人増加した。

表4 年齢別就学免除・猶予，居所不明者数

(単位：人)

区分	計	計		男		女	
		学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)	学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)	学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)
就学免除者	計	-	-	-	-	-	-
	肢体不自由	-	-	-	-	-	-
	病弱・虚弱	-	-	-	-	-	-
	教護院又は少年院にいるため	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
就学猶予者	計	3	1	-	-	2	1
	肢体不自由	-	-	-	-	-	-
	病弱・虚弱	-	-	-	-	-	-
	教護院又は少年院にいるため	-	-	-	-	-	-
	その他	3	1	-	-	2	1
1年以上居所不明者	-	-	-	-	-	-	
学齢児童生徒死亡者(平成14年度)	4	3	1	1	2	-	

## 卒業後の状況調査

### 1 中学校卒業生

平成15年3月の中学校卒業生は，8,608人(男4,386人，女4,222人)で前年度より556人減少した。

うち高等学校等への進学者(就職進学者を含む。)は，8,431人で進学率97.9%と全国平均97.3%を上回っている。

就職者(就職進学者を含む。)は56人で前年度より11人減少し，就職率は0.7%と前年度と同じであった。

就職先を産業別にみると第3次産業(「電気・ガス・熱供給・水道業」，「情報通信業」，「運輸業」，「卸売・小売業」，「金融・保険業」，「不動産業」，「飲食店，宿泊業」，「医療，福祉」，「教育，学習支援業」，「複合サービス事業」，「サービス業(他に分類されないもの)」，「公務(他に分類されないもの)」)が最も多く44.6%を占め，次いで第2次産業(「鉱業」，「建設業」，「製造業」)の39.3%である。

就職先を県内・県外で見ると，85.7%が県内となっている。

また，中学卒業生のうちの就職者は，年々減少傾向にある。

図6 中学校卒業生の産業別就職者比率

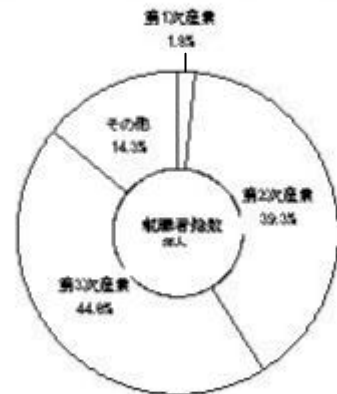
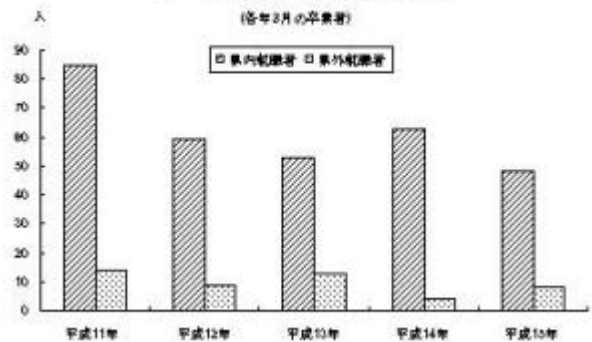


図7 中学校卒業生の就職者数推移



## 2 高等学校卒業生

平成15年3月の高等学校卒業生は8,785人（男4,302人、女4,483人）で、前年度と比べ549人減少した。うち大学等への進学者（就職進学者を含む。）は4,152人で、大学等への進学率は47.3%と前年度と比べ0.1ポイント増加しており、全国平均の44.6%を上回っている。

また、大学等への入学志願者は、4,621人（大学3,895人、短期大学726人）で前年度と比べ285人減少した。大学への志願内訳をみると、普通学部が92.1%と圧倒的に多く、次いで工業学部の3.1%である。短期大学は普通学部が68.6%と最も多いが、次いで多いのは商業学部で12.9%を占めている。

高等学校卒業生のうち、就職進学者を含む就職者総数は1,740人で前年度に比べ19人減少した。

また、就職率は19.8%と前年度に比べ1.0ポイント増加した。

就職先を産業別にみると、製造業が514人と最も多く、次いでサービス業362人、卸売・小売業272人、建設業146人となっている。

図8 高等学校卒業生のうち産業別就職者比率

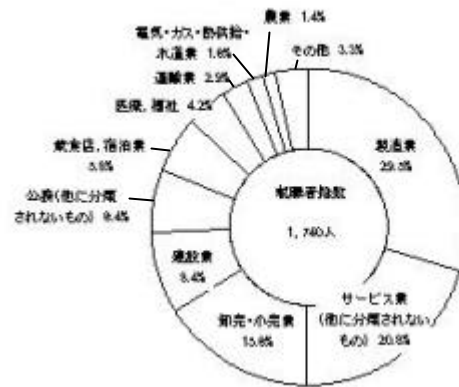


表5 高等学校卒業生の学部別入学志願者数

(単位: 人)

区分	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	その他	総合	
大学	計	3,895	3,586	5	120	87	2	8	-	68	19
	男	2,105	1,915	2	115	38	2	1	-	21	11
	女	1,790	1,671	3	5	49	-	7	-	47	8
短期大学	計	726	498	17	55	94	-	13	3	21	25
	男	119	59	4	43	7	-	1	-	2	3
	女	607	439	13	12	87	-	12	3	19	22

## 3 盲・聾・養護学校（中学部）卒業生

平成15年3月の盲・聾・養護学校（中学部）卒業生は全体で56人であり、そのうち高等学校等への進学者は55人で進学率は98.2%であった。

## 4 盲・聾・養護学校（高等部）卒業生

平成15年3月の盲・聾・養護学校（高等部）卒業生は全体で108人であり、そのうち大学等への進学者が2人で進学率は1.9%、就職者は12人で就職率は11.1%であった。